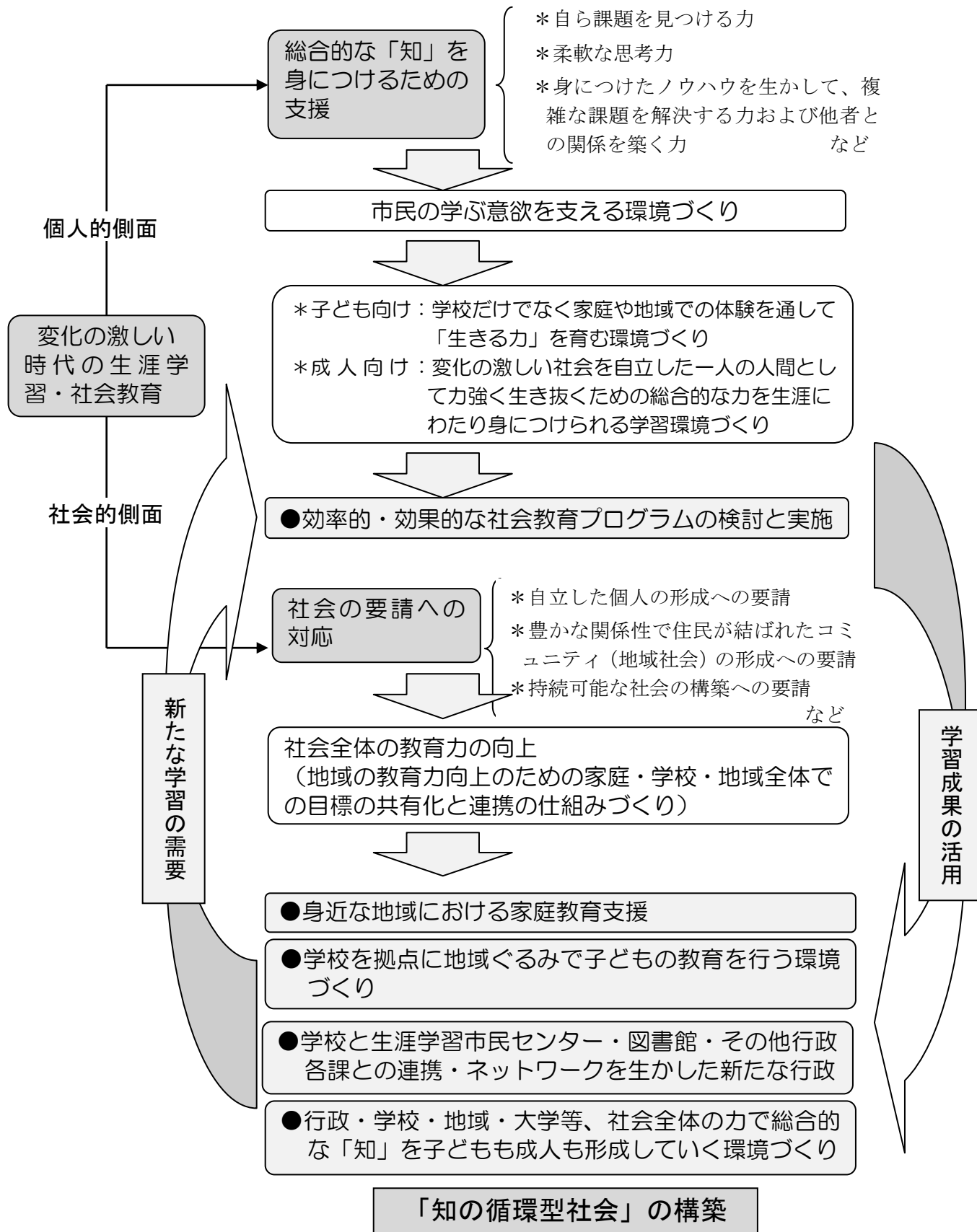


高齢化社会における課題解決に向けた社会教育側面からの取り組みに係る参考資料

1. 変化の激しい時代の生涯学習・社会教育に求められるもの

『新しい時代を切り拓く生涯学習の振興方策について ～知の循環型社会の構築を目指して～』の考え方 [中央教育審議会 平成20年2月]



2. 高齢化社会における課題解決に向けた取り組みを考えるための視点

- (1) 社会教育側面からの持続可能なまちづくりでは、継続的な取り組みが可能な地域資源を利用した各地域での取り組みが求められる。リタイアして時間的余裕があり、長い人生経験の中で、グローバルな活躍等も含めさまざまなノウハウを持つ高齢者は貴重な地域資源の一つである。
- (2) さまざまなノウハウを持つ、地域に住む高齢者や地域に存在する各種団体等を登録するとともに、地域・学校・行政・大学等の連携によりノウハウを持つ人材の育成にも努める。それらのノウハウ（学習の成果）を生かしたさまざまな地域課題解決のための取り組みを実施して、高齢者自らが生きがいを感じられるようにするとともに、子育て世代の需要に応えられる魅力的なまちづくりを進める。この取り組みの中で、新たな人材の育成や、より質の高い取り組みを進めるための新たな学習需要が生まれるので、その需要に応えるためにあらためて学習機会を提供して人材の育成を行うという循環をつくることで、いわば『知』の循環型社会を構築していく。
- (3) 地域住民全てを対象とした取り組みを考える場合、身近な場所にある地域の学校とそこに通学する子どもを核として事業を企画・実施することが有効である。子どもに連れられてその父母・祖父母が事業に参加し、継続的な事業参加で横の人間関係が生まれて、ひいてはコミュニティ形成につながっていく。

3. 課題解決に向けた取り組みで有効活用が期待できる地域資源

①人

- *リタイア後の自由な時間と長年の仕事・趣味等で培ったノウハウを有する高齢者
- *地域の大人の目を地域に向けさせる核となる学齢期の子ども
- *地域で活躍する各種団体及びその構成メンバー
- *社会教育事業をコーディネートする市職員

②施設

- *学校（一番身近な公共施設）
- *図書館、生涯学習市民センター、野外活動センター、スポーツ施設等の公共施設
- *市内大学等

③予算

- *社会教育事業予算

4. 市内外で見られるコミュニティ作りに役立つ取り組み例（詳細は資料5参照）

①市内での既存の取り組み

- *子どもいきいき広場〔土曜日に地域団体が子ども対象に学校で開催〕（子ども青少年課所管）
- *子どもの安全見まもり活動（校区コミュニティ）

- *学びのリーダーバンク [市民・市内団体等が持つノウハウを生かした講座を登録し、ノウハウを求めるグループ等に講師として紹介する] (生涯学習課所管)
- *なんでも、どこでも出前塾 [職員がさまざまな分野の市政等について、求められた場所に出かけて説明する出前講座] (生涯学習課所管)
- *生きがい創造学園 (高齢社会室所管)
- *ひらかた市民大学 (市内6大学) (学園都市ひらかた推進協議会/生涯学習課所管)
- *各種地域団体による文化・スポーツ・ボランティア活動等

②他の自治体で見られるコミュニティづくりの取り組み

- *交野市立第二中学校区子供を育てる会 [親地 (おやじ) の会ほか] (交野市/夜の帕特ロール、土曜学習 [学習支援]、挨拶活動等)
- *寝屋川市立第十中学校区地域教育協議会 [学校支援地域本部事業] (寝屋川市/コーディネーターとボランティアの協力による学校支援 [夏休み学習会、学校図書館支援、見守り隊等])
- *岡山県京山地区におけるESD (Education for sustainable Development [持続可能な発展のための教育]) 活動 (岡山市/公民館と学校・地域の連携による環境教育)
- *岩手県一関市立東山図書館による、図書館が人を繋ぎ、地域をつくる事業 (地元の特産品「東山和紙」を知る事業、和紙を広める事業、和紙を使う事業)